

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣養老高等学校 学校番号 25

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・確かな基礎学力と専門的な知識技術や資格を取得し、課題解決力と創造力を身に付けた生徒 ・自ら考え、他者を尊重し、協働して目標達成に向けて行動できる、地域の担い手となる生徒 ・明るく元気で、挨拶ができ、社会のルールやマナーを守る態度を身に付けた生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・「課題研究」や「総合的な探求の時間」を中心とした課題発見力・課題解決力の育成と地域に開かれた教育課程・地域連携学習の推進 ・一人一人の生徒が自己肯定感をもって活躍できる、より多くの学びの機会を設定 ・生徒一人一人の多様なニーズを把握し、総合学科と農業科の特性を生かした個に応じたきめ細かな指導の推進	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・好奇心・向上心 専門科目を学ぶことに興味あり、自分の良さと夢を見つけ努力できる生徒 ・協働する心 他者を尊重し、他者とともに学ぼうとする率直な姿勢を持った生徒 ・社会への関心 地域の活動や部活動に積極的に参加しようとする意欲を持った生徒

3 評価する領域・分野	学習指導（教務部）		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	多面的な学習評価、一人一人の能力に応じた指導、ICTを活用した学習活動および学習支援による理解度、総合的な探究の時間を有意義に感じるなど学習指導に関わる項目について80%以上の生徒および保護者が肯定的評価としている。しかし、「一人一人の能力に応じた指導を行っている」という質問に対し、生徒回答で前年比で減少している点に注視し、次年度の課題としていきたい。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基礎的な知識・技術の定着に向けた家庭学習時間の増加に向けた工夫 (2) 課題解決学習の充実に向けた総合学科、農業科の連携推進 (3) 新学習指導要領における観点別学習状況の評価の研究と実施を通した授業改善の取り組み (4) ICTを活用した授業改善や学校行事における情報部との連携の推進 (5) 生徒のための教育活動、過去にとらわれない働き方改革を踏まえた学校運営改善への提案		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	教務部を中心に各教科・学科、進路、学年が連携し全校体制で取り組む。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	(1) 自主学習ノートの実施および基礎トレーニングの推進を図り、基礎学力の向上に努める (2) ICT機器の有効な活用の研究により「わかる授業」づくりと「生徒が主体的に学ぶ授業」の実践など各教科の授業特性を踏まえ、授業改善の工夫、教員研修の実施		
8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	(1) 保護者生徒による学校改善アンケート (2) 生徒による授業アンケート (3) 公開授業における参観者との意見交換 (4) 指導と評価の年間計画の振り返り(前期・後期)		
9 取組状況・実践内容等	(1) 基礎的な知識・技術の定着に向けた家庭学習時間増加の推進 ①自主学習ノートの活用と指導の徹底 ②各教科、科目における宿題、長期休暇等における課題の作成 ③進路指導部と連携を図り学力向上を目指す (2) 課題解決学習の充実に向けた総合学科、農業科の連携推進 ①専門科目授業におけるプロジェクト学習・課題研究の充実		
10 評価視点	①保護者、生徒によるアンケート調査結果の分析 ②生徒による研究成果発表が、授業の主体的な学びとしての目標が達成されているか		
11 評価	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D		

	<p>②インターンシップの体験を通して進路選択に役立てる ③総合学科と農業科合同の学習成果発表会を開催し、互いの学びを理解とともに持続可能な取り組みの模索と提案</p> <p>(3) I C T機器を活用した授業展開の具体的な取り組みのため情報部との連携を強化し、指導方法の研究に努める ①各教科で対話的深い学びにつながる授業の工夫と実践 ②生徒指導との連携による人権文化あふれる学校づくりに配慮した目標設定とわかる授業、力をつける授業の推進 ③研究授業と公開授業による、教員同士の授業研究および情報共有 ④生徒による授業評価の実施と振り返りをもとにした目標設定</p> <p>(4) 生徒のための教育活動、過去にとらわれない働き方改革を踏まえた学校運営改善への提案 ①次年度以降のカリキュラムの研究と運営方法 ②学校行事の見直しと変更 ③観点別学習状況評価方法の提案と試行 ④組織で取り組む指導と教員の意識改革</p>	<p>③指導と評価の年間計画への記載事項の内容が目標に沿っているか</p> <p>④授業改善を含めた学習指導について教員同士の情報交換ができたか</p>	A <input checked="" type="radio"/> B C D
12 成 果 ・ 課 題	<p>▲ (1) 日常の家庭学習の環境を整え、学習教材の持ち帰り指導の徹底や学習習慣の確立が必要である。特に定期考查前の学習時間が十分とは言えない。クラス内の学力差と学び直しの対象生徒に対しても、今後の指導の在り方や方策を講じなければならない。</p> <p>○ (2) 持続可能な取り組みとして地域との連携を多様化させ、研究や学習成果の発表、スピーチする場面が広がっている。本校生徒の活躍する機会が増えることで、地域貢献できる生徒がこれからも増えることが期待できる。</p> <p>▲ (3) 学習目標に照らし生徒に何をどのように学ばせ、どのような力を身に付けさせるのか、そのうえ今後の観点別学習状況評価に反映させることが急務となる。さらなる教員側の研究や工夫が授業改善に努めなければならない。</p> <p>○ (4) 年間で予定していた行事の一部はコロナ禍の影響によって変更したが西濃地区の中学校教員対象に本校の施設見学会を開催するなど本校のP Rができた。学習指導委員会を通じて職員の働き方改革も視野に入れ、今後も生徒の学力向上のための行事の在り方、取り組みについて十分な検討が必要と考える</p>	総合評価	A <input checked="" type="radio"/> B C D
13	来年度に向けての改善方策案		
	<p>(1)基礎的な知識・技術の定着に向けた個別最適な学習指導の模索 (2)課題解決学習の充実と実践に向けた総合学科、農業科の連携推進の強化 (3)観点別学習状況評価の具体的な実施と授業改善のための意識改革 (4)学習指導員会における学習到達目標を組織的に取り組むための結束づくり</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・ICT化をさらに推進し、授業を深めてほしい。
- ・生徒主体の取組が活かされている。
- ・進路指導部、生徒指導部との連携がよく取れている。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣養老高等学校 学校番号 25

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
2 スクール・ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> 確かな基礎学力と専門的な知識技術や資格を取得し、課題解決力と創造力を身に付けた生徒 自ら考え、他者を尊重し、協働して目標達成に向けて行動できる、地域の担い手となる生徒 明るく元気で、挨拶ができ、社会のルールやマナーを守る態度を身に付けた生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 「課題研究」や「総合的な探求の時間」を中心とした課題発見力・課題解決力の育成と地域に開かれた教育課程・地域連携学習の推進 一人一人の生徒が自己肯定感をもって活躍できる、より多くの学びの機会を設定 生徒一人一人の多様なニーズを把握し、総合学科と農業科の特性を生かした個に応じたきめ細かな指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 好奇心・向上心 専門科目を学ぶことに興味あり、自分の良さと夢を見つける努力できる生徒 協働する心 他者を尊重し、他者とともに学ぼうとする率直な姿勢を持った生徒 社会への関心 地域の活動や部活動に積極的に参加しようとする意欲を持った生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談（生徒指導部）		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「基本的なモラル・マナーの習得」および「いじめや差別を許さない対応」については、生徒・保護者ともに高い評価を受けている。 「個々の生徒の相談対応」についても90%以上の高評価を得ており教職員のきめ細やかな支援が実を結んでいる。 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 ② 自らの生命と健康および人権の尊重 ③ 安全・安心な学校生活の実現 ④ 教育相談の充実・チームサポートによるスクールカウンセリングの展開 ⑤ 問題行動防止と充実した高校生活実現のための全職員が連携、指導を行う 		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部、教育相談との連携 学年・学科との連携 いじめ防止対策組織など、組織体制の充実 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) MSリーダーズ活動や委員会活動を通した規範意識の向上 (2)全校統一人権LHRの取組 (3)交通安全啓発活動 (4)教育相談活動 (5)生徒支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者の各アンケート結果 遅刻指導、交通事故、問題行動数による評価 		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
(1)基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導の実施と学年会との連携した事後指導の徹底 コミュニケーション能力(挨拶・言葉遣い等)マナーの指導 外部講師による情報モラル講話の実施と携帯電話のマナー指導 MSリーダーズ活動を通した規範意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 各行事の実施状況や生徒の様子、感想等 MSリーダーズ活動後の生徒の成長 身だしなみ違反や問題行動件数 生徒や保護者のいじめに関する調査 スクールカウンセラーの活用状況 	A <input checked="" type="radio"/> B C D	
(2)自らの生命と健康及び人権の尊重 <ul style="list-style-type: none"> コロナハラスメントの防止 生活アンケートによるいじめの実態把握と早期の指導 全校統一人権LHR MSリーダーズによる人権啓発活動 		A <input checked="" type="radio"/> B C D	
(3)安心・安全な学校生活の実現 <ul style="list-style-type: none"> 交通安全強化指導の実施 自転車点検、交通安全講話の実施 MSリーダーズによる交通安全啓発活動 		A <input checked="" type="radio"/> B C D	

	(4)教育相談の充実、チームサポートによるスクールカウンセリング ・生徒指導O Rを通した1年生の適応指導の充実(宿泊研修は中止) ・教育相談週間や教育心理検査等の実施による生徒理解 ・S C、子ども相談センターの活用	A <input checked="" type="radio"/> B C D
	(5)問題行動の防止と充実した高校生活実現のための援助指導 ・「あたたかい言葉かけ」等の継続による倫理観道徳観の育成 ・生徒への支援体制の充実(学年会、職員会議等で情報共有と連携)	A <input checked="" type="radio"/> B C D
12 成 果 ・ 課 題	○結果的には、年々交通事故数の減少が見られる。ただ大きな事故はないもののながら運転や飛び出しなどがあり、交通事故0を目指していきたい。 ○HRを中心とするきめ細かい支援と教育相談により、いじめに関しては重大な事案になる前に対処している。組織的な運営の中でより一層生徒支援につながるよう努めたい。 ▲いじめを見逃さないことが大切であるが、それ以前の未然防止が重要であると考える。「あたたかい言葉かけ」や「良いことみつけ」を一過性のイベントとせず、学級日誌から良い事例をあげて全校生徒へ紹介するなど、年間を通じて日頃から「相手を思いやる心」を育成する意識を各担任がもち、教室内の落ち着いた生活環境をつくるクラス運営を心掛けたい。	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D
13	来年度に向けての改善方策案 ①「生徒心得」の改定元年にあたり、より生徒自身の自発的・主体的な自己指導能力の育成が求められるよう、働きかけたい。 ②基本的生活習慣(挨拶、時間厳守)の確立と自己決定の場の提供を図りより自ら考え選択決定させる支援。 ③共感的な人間関係の育成のため、支持的で支援的なホームルームのつくり。 ④交通安全(特に自転車通学)の徹底。 ⑤情報モラル教育の充実。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月27日

【意見・要望・評価等】

- いじめ認知件数の減少は、学校の教育活動において生き物を扱うことで生命の大切さを知っている生徒が多いからではないか。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣養老高等学校 学校番号 25

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・確かな基礎学力と専門的な知識技術や資格を取得し、課題解決力と創造力を身に付けた生徒 ・自ら考え、他者を尊重し、協働して目標達成に向けて行動できる 、地域の担い手となる生徒 ・明るく元気で、挨拶ができ、社会のルールやマナーを守る態度を身に付けた生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・「課題研究」や「総合的な探求の時間」を中心とした課題発見力・課題解決力の育成と地域に開かれた教育課程・地域連携学習の推進 ・一人一人の生徒が自己肯定感をもって活躍できる、より多くの学びの機会を設定 ・生徒一人一人の多様なニーズを把握し、総合学科と農業科の特性を生かした個に応じたきめ細かな指導の推進	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・好奇心・向上心 専門科目を学ぶことに興味あり、自分の良さと夢を見つけ努力できる生徒 ・協働する心 他者を尊重し、他者とともに学ぼうとする率直な姿勢を持った生徒 ・社会への関心 地域の活動や部活動に積極的に参加しようとする意欲を持った生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導（進路指導部）		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「適切な進路情報の提供」「将来の進路希望に沿った支援・助言」の2項目とともに、9割以上の生徒、及び8割以上の保護者から肯定的な評価を得ており、高い支持を受けている。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇専門教育を活かした進路指導と基本的ソーシャルスキルの定着 ◇より高い進路目標を目指させる指導、地域で活躍できる人材の育成 ◇外部教育力、地域連携を活用した社会的・職業的自立意識の育成、個性・能力・興味・適性を活かす進路指導		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年団を中心としたキャリア教育実践を進路指導部がサポートする体制 ・各学科、系列と連携したキャリア教育体制 ・地域企業、外部人材との緊密な連携や地域社会との協同体制 ・働き方改革の観点からの行事精選、仕事のスリム化		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 基礎トレ、キャリアガイダンスの充実 (2) 小論文講座、面接指導、志望理由書指導 (3) 外部教育力の活用	1) 就職内定率、進学合格率 2) 就職内定率、進学合格率 3) 事後アンケート、進路アンケート		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点		
・基礎トレ：基礎学力・一般常識の習得に主体的な取組体制を作った。3年前期は全クラスがSPⅠ対策や基礎学力の増強を目的に朝トレ・朝スピーチを実施した。 ・小論文指導、面接指導を通して、自己表現力を高め、課題解決に向けた取組を促した。 ・地域社会と連携し、講演会や事業所見学、インターンシップ、職業体験講座を実施。	①基礎トレや朝トレに取り組む姿勢・定着度各種ガイダンス前後の生徒の変化・成長 ②進学・就職に対応できる自己表現力の向上 ③生きる力、職業観・勤労観、進路意識の向上		
12 成果・課題	11 評価		
○進学・就職活動を通して自己表現力や基礎学力を高め自立心を育み、大半の生徒が第一志望への合格を果たした。 ▲将来への展望をもった向上心を喚起し、家庭学習習慣を確立し1年生から高い進路目標を掲げて着実に努力を継続できる人材育成を図りたい。2年生はより高い進路志望を実現する具体的な道筋を主体的に考えて進路実現を図らせたい。	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D		
13 来年度に向けての改善方策案	総合評価 <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D		
	<ul style="list-style-type: none"> SPⅠに対応できる「確かな基礎学力」の養成と、基礎トレ・朝トレの充実。 主体的な進路選択に結び付く、キャリア教育行事の実施、事前・事後指導の充実。 働き方改革の観点から進路行事のスリム化、効率化を推進する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・企業評価として本校の卒業生は、真面目で我慢強いと聞いている。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣養老高等学校 学校番号 25

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・確かな基礎学力と専門的な知識技術や資格を取得し、課題解決力と創造力を身に付けた生徒 ・自ら考え、他者を尊重し、協働して目標達成に向けて行動できる 、地域の担い手となる生徒 ・明るく元気で、挨拶ができ、社会のルールやマナーを守る態度を身に付けた生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・「課題研究」や「総合的な探求の時間」を中心とした課題発見力・課題解決力の育成と地域に開かれた教育課程・地域連携学習の推進 ・一人一人の生徒が自己肯定感をもって活躍できる、より多くの学びの機会を設定 ・生徒一人一人の多様なニーズを把握し、総合学科と農業科の特性を生かした個に応じたきめ細かな指導の推進	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・好奇心・向上心 専門科目を学ぶことに興味あり、自分の良さと夢を見つけ努力できる生徒 ・協働する心 他者を尊重し、他者とともに学ぼうとする率直な姿勢を持った生徒 ・社会への関心 地域の活動や部活動に積極的に参加しようとする意欲を持った生徒

3 評価する領域・分野	◇特別活動（特別活動部）		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「学校行事の有無、実施について新型コロナウイルス感染症対策等を講じ生徒の安全を最優先して計画をしている」「HR活動・部活動が活発に行われている」の全ての項目で生徒・保護者ともに肯定的な高い評価を受けた。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	①リーダーの養成や部活動、ボランティア活動等を通して、自己充実感・自己決定の場を設定し実践的な態度の育成に努める。 ②HR活動を通して、学校生活への適応を図り、人間としての在り方・生き方の指導の充実に努める ③学校行事や集団指導で、生徒の自主的な活動を伸ばし、帰属意識の高揚を図る。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・企画委員会、職員会議、各学年会 ・生徒会執行部会		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) HR活動 (2) 生徒会活動 (3) 部活動	(1) 事後アンケート (2) 生徒、職員の感想 (3) 大会等の報告、結果		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点		
(1) LHR活動 統一、HR独自での活動 (2) 生徒会 新入生歓迎会、球技大会、大養祭、3年生を送る会 (3) 部活動 日頃の取り組み、大会への参加	・各行事への取り組み姿勢、感想等 ・活動後の生徒の成長 ・大会結果		
12 成果 ・ 課題	11 評価 A (B) C D A (B) C D A (B) C D 総合評価 A (B) C D		
○コロナ禍の中での行事も3年目を迎えて、新しい行事への参加スタイルが確立できてきた。オンラインでどう伝えるかなど生徒会中心に創意工夫されていた。 ○各HRで生徒同士が協力し合い行事への準備や参加をすることができた。 ▲部活動の退部が多かった（1年生）特に独自選抜で入学してきたにも関わらず退部する生徒がいた。			

13 来年度に向けての改善方策案

- ・大養祭はコロナ感染症対策でオンライン中心になったが、少しずつ緩和させる方向で考えている。日程から見直し、生徒の安全を守りつつ、思い出に残る行事となるよう計画・実行をしたい。
- ・部活動を活性化しあわいに切磋琢磨できる環境作りをしていきたい。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和 年 月 日

【意見・要望・評価等】

- ・
- ・

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣養老高等学校 学校番号 25

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・確かな基礎学力と専門的な知識技術や資格を取得し、課題解決力と創造力を身に付けた生徒 ・自ら考え、他者を尊重し、協働して目標達成に向けて行動できる、地域の担い手となる生徒 ・明るく元気で、挨拶ができ、社会のルールやマナーを守る態度を身に付けた生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・「課題研究」や「総合的な探求の時間」を中心とした課題発見力・課題解決力の育成と地域に開かれた教育課程・地域連携学習の推進 ・一人一人の生徒が自己肯定感をもって活躍できる、より多くの学びの機会を設定 ・生徒一人一人の多様なニーズを把握し、総合学科と農業科の特性を生かした個に応じたきめ細かな指導の推進	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・好奇心・向上心 専門科目を学ぶことに興味あり、自分の良さと夢を見つけ努力できる生徒 ・協働する心 他者を尊重し、他者とともに学ぼうとする率直な姿勢を持った生徒 ・社会への関心 地域の活動や部活動に積極的に参加しようとする意欲を持った生徒

3 評価する領域・分野	◇組織運営（総合学科部）		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	(1) 家庭との連携（情報の提供） (2) 学習指導（総合的な探求） (3) 独自項目（資格取得指導） (4) 独自項目（体験学習） (5) 独自項目（地域連携）の5項目は生徒からの集計結果において「よくあてはまる」が80%に達しておらず、次年度以降の改善目標の指標として学校と生徒双方のコミュニケーションの活性化と体験を通じて多くの学びを地域と創成できるような取り組みを考えたい。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇本校の異なる学科が持つ特性を生かした教育活動の構築を目指す (1) 農業科教育活動の理解と交流を継続して取り組む		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 企画委員会、職員会議、総合学科部会での検討と連携強化 (2) 他分掌、学年会との連携強化 (3) 総合学科（商業科・生活福祉科）農業科が連携した企画を考え実行へと移したい		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標 (1) 事後アンケート (2) 生徒の感想 (3) 科目選択変更者の人数		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
(1) 校内販売会 (2) 校内弁論大会、学習成果発表会 (3) 科目選択説明会、科目選択カウンセリング	①授業と商品開発企業との連携による教育効果 ②生徒の取組後の成長度合い ③系列科目選択に向けての指導手順と生徒自身の取組度合い	A B C D	A B C D
(1) 校内販売会において、ビジネス系列が一太郎と共同開発した「太郎おじさんのさわやかフランク」、鶴舞屋と昨年度の開発商品を更に改善した「鶴舞美そぼろ～大養唐辛子入り～」商品を販売した。今年度も校内関係者に対する限定開催であった事、外部の催事に出店しての体験を生徒に与えることが出来なかった点は今後の課題として対応を考えたい。 (2) 春季課題で設定した「身近な問題や社会の出来事」をテーマに、一人一人が考え、新学期4月にクラス弁論大会を実施後、各クラス代表者がオンラインでの校内弁論大会で発表した。 (3) 1年次生に対し「科目選択説明会」「系列授業見学」「担任による事前相談」などを通じて各系列に対する特徴や選択科目内容と進路選		A B C D	

	択との関係性を正しく理解出来るよう取り組みを実施した。 2年次生に対し「総合的な探究の時間」内での科目選択の説明を実施した。	
12 成 果 ・ 課 題	○ビジネス系列の商品開発において、販売商品を企業と共同を通じて専門的知識について授業を通じて学び合い、継続連携しながら商品の完成と販売体験ができた。 ○校内弁論大会を通じて多様な受け止め方や考え方を聞くことで多様性を高めることができた。 ▲学習活動等についてホームページ等の情報活用が不十分。	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D
13	来年度に向けての改善方策案 ・系列選択のスケジュール設定、系列選択や科目選択をクラス担任だけでなく、系列主任がヒアリング期間を設けて丁寧な対応を設定する。 ・校内の農業科・総合学科（商業科・生活福祉科）の持ち味を引き出しながら他学科連携を推進する。 ・周辺の行政機関、事業所、観光資源等を活用した地域連携を構築する。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和 年 月 日

【意見・要望・評価等】

-
-

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣養老高等学校 学校番号 25

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・確かな基礎学力と専門的な知識技術や資格を取得し、課題解決力と創造力を身に付けた生徒 ・自ら考え、他者を尊重し、協働して目標達成に向けて行動できる ・地域の担い手となる生徒 ・明るく元気で、挨拶ができ、社会のルールやマナーを守る態度を身に付けた生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・「課題研究」や「総合的な探求の時間」を中心とした課題発見力・課題解決力の育成と地域に開かれた教育課程・地域連携学習の推進 ・一人一人の生徒が自己肯定感をもって活躍できる、より多くの学びの機会を設定 ・生徒一人一人の多様なニーズを把握し、総合学科と農業科の特性を生かした個に応じたきめ細かな指導の推進	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・好奇心・向上心 専門科目を学ぶことに興味あり、自分の良さと夢を見つけ努力できる生徒 ・協働する心 他者を尊重し、他者とともに学ぼうとする率直な姿勢を持った生徒 ・社会への関心 地域の活動や部活動に積極的に参加しようとする意欲を持った生徒

3 評価する領域・分野	◇組織運営(農業部)		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒及び保護者アンケートの結果、「地域連携に努めている」や「体験授業を多く取り入れ職業観や勤労観を持たせる教育活動が行われている」という質問に対し、90%以上が良くあてはまる、やや当てはまると回答しており、本校教育活動に好意的な意見が多い。新聞報道等により地域の方々の本校生徒に対する期待の声は大きい。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 持続可能な循環型社会に向けて環境・農業教育を推進し、世界規模で考え、足元から行動する学校として地域の拠点となるグローバル・アグリハイスクールをめざす。 (2) 人権感覚を養い、心の教育、命の教育、食農教育を推進する。 (3) 経営能力や奉仕精神の育成に重点を置き、基本的な農業技術能力と応用力を持った地域社会人を育成する。 (4) 地域貢献、地域連携、地域共生、地域資源の活用を推進する。 (5) 幼保小中高などに対し、農業教育活動の普及、支援を推進する。 (6) 生徒一人一人を一層輝かせ、幸せにつなげる進路指導をすすめる		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員会議、農業部会、科長会、各学科会議 ・地域企業との連携や地域社会との協同体制		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標 (1)環境教育の推進 (2)心の教育・いのちの教育・食農教育の推進 (3)農業技術教育の推進 (4)地域に根ざした教育の推進 (5)農業教育の普及活動の推進 (6)進路指導の充実 事後アンケート、各種メディア等の報道		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
(1)耕畜連携を推進し、乾草残渣・牛糞などの堆肥化と耕種での有効活用を進めた。水生生物調査や希少動物の種の保存への取組など新学科の中核となる学習を展開できた。 (2)栽培管理、生育調査、加工品作り等科毎に野菜・水稻を中心とした実践的な授業展開を行った。また、小学校、幼稚園児童の交流受け入れ、農福連携(特別支援学校との交流)、動物供養など多様な心を育てる学習を推進した。 (3)作物部門ではお米のJGAP認証更新・維持審査を受け、家畜・畜産物においても新規取得に取り組んだ。教職員向けに「西濃地域農業教育懇談会」を実施し、最新の農業技術について情報共有した。 (4)「美濃柴犬の種の保存」「飛騨牛の発展のための活動」「地域素材を生かした商品開発」「花の魅力を伝える活動」「環境保全米の栽培に向けた活動」など産学官連携し、地域活性化につながる活動ができた。 (5)新聞、JA広報誌等を通じて生徒の実習活動の様子を	事後アンケート 各種イベント等における地域の声 職員、生徒の意見 各種メディア等の報道	A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	
			A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
			A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
			A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
			A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

地域に公開した。地域への農業学習内容の普及PRの場である「大養祭」は非公開となり、一般向けの各種販売会も自粛した関係で、直接生徒自身が地域の方にPRする場面が設定できなかった。		
(6)西濃農林事務所と連携した管内農業現地巡回学習会や地域産業の担い手育成総合戦略事業を展開する中で、新規就農や担い手育成に向けての意識付けを高めることができた		A <input checked="" type="radio"/> B C D
12 成果 (1)有機減農薬栽培への転換 → 堆肥化施設の整備計画等の推進 (2)幼・小児童等の受入継続 → 学習効果と計画的な受入 (3)生産物の付加価値定着を図る → PR戦略と流通実践 • (4)新商品開発活動等の定着 → 連携内容を一層PR、関連業者との連携強化 課題 (5)農場の在り方 → 学科改編に伴い農場規模や農場生産物の販売等を模索 (6)後継者育成 → 後継者育成の実践場づくり。進学へのモチベーション維持活動		総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D
13 来年度に向けての改善方策案 (1)学科改編及び新学習指導要領を踏まえた各科カリキュラムの再検討と農場の将来構想の構築 (2)地域資源及び農場生産物を活用した生徒の地域活性化と流通実践への取組 (3)ホームページの定期的な更新と地域メディアとの連携によるPRの充実 (4)後継者育成活動の充実と地域技術交流体制作り (5)専門性を生かした進路先確保と進学意欲を積み上げる指導		実施年月日：令和5年1月27日
II 学校関係者評価 【意見・要望・評価等】 • 和牛甲子園の5年間の取組が、先輩から後輩へと繋がり成果を發揮している。 •		

【別添2】(様式例2)

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣養老高等学校

学校番号 25

I. 自己評價

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな基礎学力と専門的な知識技術や資格を取得し、課題解決力と創造力を身に付けた生徒 ・自ら考え、他者を尊重し、協働して目標達成に向けて行動できる ・地域の担い手となる生徒 ・明るく元気で、挨拶ができ、社会のルールやマナーを守る態度を身に付けた生徒
	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「課題研究」や「総合的な探求の時間」を中心とした課題発見力・課題解決力の育成と地域に開かれた教育課程・地域連携学習の推進 ・一人一人の生徒が自己肯定感をもって活躍できる、より多くの学びの機会を設定 ・生徒一人一人の多様なニーズを把握し、総合学科と農業科の特性を生かした個に応じたきめ細かな指導の推進
	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好奇心・向上心 ・専門科目を学ぶことに興味あり、自分の良さと夢を見つけ努力できる生徒 ・協働する心 ・他者を尊重し、他者とともに学ぼうとする率直な姿勢を持った生徒 ・社会への関心 ・地域の活動や部活動に積極的に参加しようとする意欲を持った生徒

3 評価する領域・分野	◇研修（寮務部）	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	S46年より、文部科学省指定農業経営者育成高等学校（B型）寄宿舎いぶき寮を運営。新型コロナウイルス対策で、令和2年度より寮研修（農業経営者育成研修）を行っていない。 通年寮生22名のうち、運動系部活動18名、農業系部活動3名、文科系部活動1名。通学困難な遠隔地生徒は0である。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 農業経営者育成研修を通じ、人間性、指導性、自律性を持った産業経営者の育成を目指す。 (2) 寮教育を通じ自律的自治組織の運営能力、危機管理能力を身に着ける。 (3) 集団での宿泊研修を通じ、社会人としての生活習慣を身に着ける (4) 食事や農業体験を通して、食育を推進する。 (5) ボランティア活動を通じ、地域貢献、地域連携を推進する。 (6) 施設設備の改修・充実	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員会議、舍監会議、寮生総会 ・学科主任、担任、部顧問との連携	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標 (1) 農業経営者育成研修の運営 (2) 寮生による自律的自治運営、（寮生委員会、週番、感染症対策、災害対応訓練） (3) 生活管理、衛生管理、ニュースファイル。 (4) 寮生菜園・食育啓蒙活動 (5) MSリーダース活動 (6) 寮費・研修費の検討。老朽化設備の改修。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
(1) 農業経営者育成高等学校について職員研修を行った。 来年度の農業経営者育成研修再開に向け準備ができた。 新2・3年生については、研修費を繰り越し任意で研修を可能にしている。 (2) 寮生総会、寮生委員会、災害時対応訓練、感染症予防対策を行った。 (3) 週番・学習・進路・生活指導、ニュースファイル指導を行った。 (4) 本校農産・加工品を用いた地産地消活動。食品ロス削減活動。寮生菜園活動（果樹・ジャガイモ）を行った。 (5) 挨拶運動、雪かき、牧田川清掃活動を行った。 (6) 食材・燃料費高騰に伴う寮費・研修費の見直しを行った。配水管、給湯管、ガスボイラーの修繕を行った。	全国農業経営者育成高等学校研究協議大会 事後アンケート 寮生保護者会 職員、寮生の意見	A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D A <input type="radio"/> B <input checked="" type="radio"/> C <input type="radio"/> D A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input checked="" type="radio"/> D A <input type="radio"/> B <input checked="" type="radio"/> C <input type="radio"/> D A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

12	(1)農業経営者育成研修の再開と充実（内容・期間の検討） 成果 (2)感染症対策の継続。寮生委員会（自治活動）の充実。 (3)自主的生活改善活動の充実。卒寮生との交流。 課題 (4)地産地消、栄養管理や食品ロスへの関心。自給的菜園の運営 (5)地域ボランティアの充実 (6)老朽化設備・備品の改修	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D
----	---	--

13 来年度に向けての改善方策案

- (1)各学科の実情に合った農業経営者育成研修の実施（内容・期間の検討）
- (2)寮生委員会による自治活動。感染症・災害対策の継続。
- (3)寮生自らの生活改善活動の推進（生活改善ファイルの利用・外出帰省確認の徹底）
- (4)農場食材の日、栄養管理の日、食品ロス削減の日を設けて取り組みを行う。
- (5)MSリーダーズ活動と連動し、地域貢献を行う。
- (6)計画的な修繕・備品更新を行う（駐輪場・生垣・洗濯機・乾燥機・厨房設備）

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年 月 日

【意見・要望・評価等】

-
-